

図書館報

No.
138
1995.6

「図書館の更なる充実と発展を願って」



図書館長
門田見 昌明

「真理は万人によって求められることを自ら欲し、芸術は万人によって愛されることを自ら望む。かつては民を愚昧ならしめるために学芸が最も狭き堂宇に閉鎖されたことがあった。今や知識と美とを特権階級の独占より奪い返すことはつねに進取的なる民衆の切実なる要求である。」

「生命ある不朽の書を少数者の書斎と研究室とより解放して街頭にくまなく立たしめ民衆に伍せしめるであらう。」

岩波文庫の奥付の裏に、今も残されている「読書子に寄す」の冒頭の言葉であることは、よく知られている。図書館も、かつては特権階級・支配階級のための「狭き堂宇」であった。大学もかつては、一部エリートのゆくところであり、大学図書館も、専ら研究のために存在する「狭き堂宇」であった。

しかし今日では、大学は単に研究機関としてのみならず、教育機関としての性格を強めてきたことは周知のところである。本学もまたその例外ではない。「生命ある不朽の書」の中には、安価に入手できるものも多くなってきている。加えて、必ずしも「不朽」とはいえない膨大な資料・情報が産出され、多様な必要に応じて当事者に即時に提供できるシステム（電算化・オンラインシステム）が急ピッチで開発され、図書館の機能も大きく様変わりしようとしている。この新しいシステムを研究のみならず、教育にも生かしていく必要は現実のものとなってきた。しかも、「求められることを自ら欲する真理」「愛されることを自ら欲する芸術」が、万人に等しく共通か否かさえも問われる事態が生まれてきている様に思える。

当面、「不朽の書」「必要な資料・情報」の発見と選択は、教師・学生個人に任されている形だが、その効率的でかつ賢明な収集と保存は「進取的なる大学図書館関係者」の大きな課題となってきた。共同利用システムのネットワークも視野に入れた、「選書委員会」のようなものの新設も必要になってきた。利用上のソフトシステムやサービスの改善も含めて、大きな課題を残しながら、更なる図書館の充実発展を期待してペンを置くことにします。

《目 次》

巻 頭 言	図書館長 門田見 昌 明	1
あなたはどのタイプ!!		2
他大学の利用者より	九州大学大学院 勢 一 智 子	3
	グルノーブル第3大学 ピュジヨル・ナタリー	3
北京大学図書館	文学部国際文化学科教授 邊土名 朝 邦	4
チューリッヒ大学の3つの図書館	文学部国際文化学科教授 森 泰 男	6
新着視聴覚資料紹介		7
新着図書・AV案内		8
お知らせ		10



他大学の利用者より

寄稿

九州大学大学院 勢一智子

近年、情報化社会といわれ、マルチメディアが脚光を浴びており、多種多様なメディアが多彩な情報を提供し続けている。そうした情報化の恩恵を受けて、社会生活は豊かにまた便利になった。社会における情報量を飛躍的に増大させたのは、主に映像や音声などの一方的に直接流入してくるメディアである。

これらのメディアによる受け入れ易い情報があふれる中で、静態的な「活字」というメディアで供給された情報を知識として吸収するには、その受け入れ側はかなりのエネルギーを費やすこととなる。ある事柄について知識を得たいときには、まず大量の本や雑誌を集め、その中から必要な部分を探し出し、そしてそれを精読・理解しなければならない。これを個人ですべて行おうとするならば、相当の労力と集中力が要求されるであろう。

そのための多くの書物と環境を提供してくれるのが、図書館である。整理・分類された書物の数々、加えて、騒がしい実社会から解放された、静寂かつ穏やかな雰囲気、本と対話するには格好の環境である。この点では、確かに試験勉強にも最適であるが、もっぱら暗記の場のみ利用するのでは、惜しい気がする。また、常に専攻研究活動に終始するだけというのも物足りなく感じる。

やはり、時間を忘れて「散策」を楽しみたい。日の和らかな昼下がり、気の向くままに手にした本を、静かに心を落ち着かせて読みふける。そして、ゆったりと思いをめぐらせる。時には、こんな贅沢な時間を過ごすのも素敵ではないか。きっと、ティータイムのコーヒーがひと味違うはずである。

私たち研究者にとっては、活字は今なお重要な情報源であり、かつ思考の場でもある。優れた文献に出会うことは喜びであり、まさに、そのような文献は共有財産である。外部利用者であっても、多くの「財産」と、それを共有するための快適な環境を享受できるよう、さらに開かれた図書館へと発展されることを今後も期待したい。



寄稿

À propos de la bibliothèque de Seinan Gakuin

Nathalie PUJOL
ピュジョル・ナタリー

La première fois que j'ai vu la bibliothèque de Seinan Gakuin, j'ai été vraiment surprise par son apparence moderne. J'ai pensé que les étudiants avaient de la chance de pouvoir consulter divers ouvrages dans un bâtiment si bien équipé!

De plus, à mon sens, la bibliothèque de Seinan possède de nombreux documents, non seulement japonais, mais aussi en particulier français. J'ai été bien étonnée quand j'ai découvert, par exemple, toute la collection "Livres de poche" au quatrième étage!

Mais je dois dire que ce que j'ai le plus apprécié, c'est la gentillesse du personnel bibliothécaire qui a toujours volontiers discuté avec les "Ryûgakusei", à propos de leur vie quotidienne et de leur cursus à Seinan Gakuin. L'Université de lettres de Grenoble possède bien évidemment une bibliothèque dont le fonctionnement est semblable à celle de Seinan. La seule différence est peut-être que l'Université Stendhal (de Grenoble) dispose, en plus de la bibliothèque principale, de petites bibliothèques spécialisées pour chaque section, en anglais, en littérature moderne, en linguistique, etc.

Quoi qu'il en soit, je crois qu'aussi bien à Seinan qu'à Stendhal, les "rats de bibliothèque", qui animent la vie universitaire, sont nombreux.

北京大学図書館



文学部国際文化学科教授 邊土名朝邦

1993年8月26日から1994年8月29日まで、大学より在外研究を認められ、中国・シンガポール・香港に滞在して研究調査活動に従事することができた。中国では、北京大学の哲学系に初めの11ヶ月間、高級進修生として中国哲学関係の授業を聴講した。この間、実に多くの楽しくも忘れがたい経験をしたが、北京大学図書館を中国人学生と同様に利用することができたのも、今考えてみると、至福の経験ではなかったかと思う。

中国の大学は大体どこでもそうだが、北京大学も実に広大なキャンパスを有している。校内の移動には自転車かバイクが欠かせない程である。その広大なキャンパスの中心に位置しているのが、図書館なのである。図書館はちょうどEの字をひっくり返して真中にたて棒を引いた、田の形の四階建ての建物である。1975年に落成し、総面積が24,500平方メートルで、閲覧室、借出室、検索室、事務室、学生の自習室等を含めて大体20余室あり、2,000人余りが同時に閲覧できる。写真はその西側正面玄関を撮ったもので、見た目ではさほどに感じないが、実際は写真に全体が入らぬ程ばかりか。以前にはこの前庭に毛沢東の巨大な立像があったが、文革後に取り払ってしまった由である。図書館の中に入ると天井が高く、壮大な気分になる。

北京大学はその前身は、1898年に創建された京師大学堂で、もともとは北京市中央部の沙灘にあったのだが、1952年に市の西北郊外の海淀区の燕京大学の校地跡に移ってきたのである。現在の図書館は従って京師大学堂の蔵書楼（これは1902年に建てられた）に収蔵されていた書物も引き継いで、1993年現在で、蔵書数430万冊、中国国内国外の

機関雑誌7,000余りを架蔵する。因みに毛沢東が青年時代、京師大学堂の蔵書楼の図書館員を一時勤めていたことはあまりにも有名で、北京大学図書館員の最大の誇りとなっている。

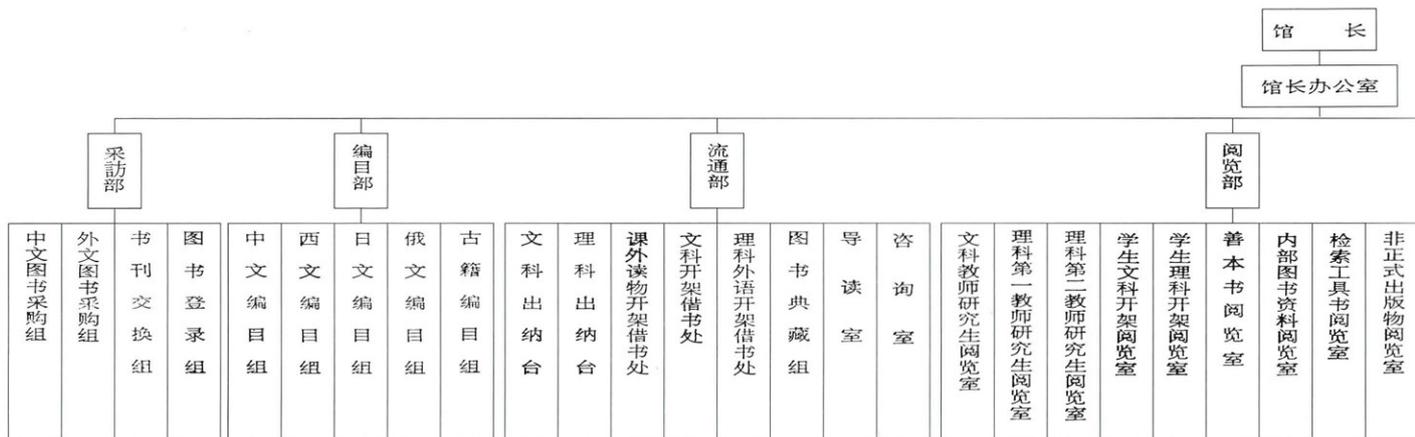
授業のない時、通常朝食をすませて8時頃に図書館に行き、夜は夕食後に行って午後9時頃に宿舎に帰ってくるのだが、昼は、11時半頃に閉館となり午後2時まで開かないのには往生した。とにかく、調子が乗ったところで閉館になるのが数ばで、昼の長い休みは何とかならないかなとため息が出た。

図書館の中で私が行く所は専ら人文社会関係の閲覧室と借出室で、閲覧証を作ってもらってまず入ったのが、二階の南側にある学生文科開架閲覧室という学部生の利用する部屋で、線装本の古書はなく、洋装本の基本図書が開架で収蔵されていて、ベニヤ板で作った入室板をもって、中へ入り、閲覧または借り出す本の所にそのボードをさし込んでおく。部屋内のカウンターに返却処と借出処があり、そこには端末機が置いてある。けっこう情報処理機器があると思った。我々留学生は三冊1ヶ月間借り出すことができる。ここで驚いたのは、いつも席が満杯であることと本が皆といつていい程ボロボロになって手垢にまみれ、製本し直されていることであった。まさに酷使に近いほど何度も借出されて読まれているのである。私は中国哲学関係の書棚をずっとみてみたが、当然所蔵していいようなここ四五年刊行された文献が架蔵されていなかったりで、又借りたい本は誰かが借りていてなかなか借り出せないことなどを知って、学部生諸君の苦勞を実感した。

二階の同じ南側の廊下沿いに台湾の新着書を閲覧できる部屋がある。この本は新着だからもちろんピカピカで、装幀も日本の新刊本のように派手で、学生たちがむさぼるように読んでいるのが印象的であった。

この二階の南側に通ずる東側の廊下の壁面には、中国で発行されている各種の新聞が貼り出されて

北京大学図書館



いる。スポーツ系、演劇関係、各方面のが、人民日報や光明日報とともにある。学生たちはここで立ち止まって、当日の最新のニュースを仕入れるのである。私はある文芸関係の新聞の追悼記事を読んで、詩人の顧城が愛妻を殺して自らも命を絶ったことをはじめて知った。

中央部に行くと、閉架の図書の借出室と図書検索室がある。ここには洋書も日本の書物も収蔵されていて、借出したい図書の書名と番号を記入した票を出すと中の館員がその本を探してくれる。岩波書店は、この図書館に献本しているらしく、文庫も案外入っていた。日本の書は、意外なのが所蔵されていて、じっくり検索すれば貴重なのがみつかったかも判らない。

図書館の中で私がかもっとも利用したのは三階の北側の文科教師研究生閲覧室である。「研究生」というのは日本語のいわゆる「研究生」ではなく大学院生のことである。教員と大学院生の専用この部屋には四部叢刊・四部備要・叢書集成などの基本叢書が架蔵されており、線装本も基本的なのは備えていて、だいたいのはここで用が足りた。この部屋で私にとって一番ありがたかったのは、日本の大正大蔵経とその引得が収蔵されていたことである。仏典を読む授業がいくつかあり、ここで予め原典に当たっておかないと授業に出ても聴いて判らずお手上げになる。ただ、例えば仏教関係では続蔵経や道教では道蔵などが架蔵されていないのは不自由で、こういうのは別の処に収蔵しているようで、教官と特別に許可を得た大学院生しか閲覧できないのかなと思った。この室は、図書の借出しはできないが、票に記入すると複写のため館内で一時帯出することができる。そこで私はたびたび一階のコピー室に行き、係の方に複写してもらった。この年配の男性に気むずかしい方がいて、何度か嫌な思いをした。中国ではどこでもそうだが、サービス員のご機嫌を損なうと事がスムーズに行かないことが多い。好い印象をもってもらうよう、気づかいに大変な時がある。中文

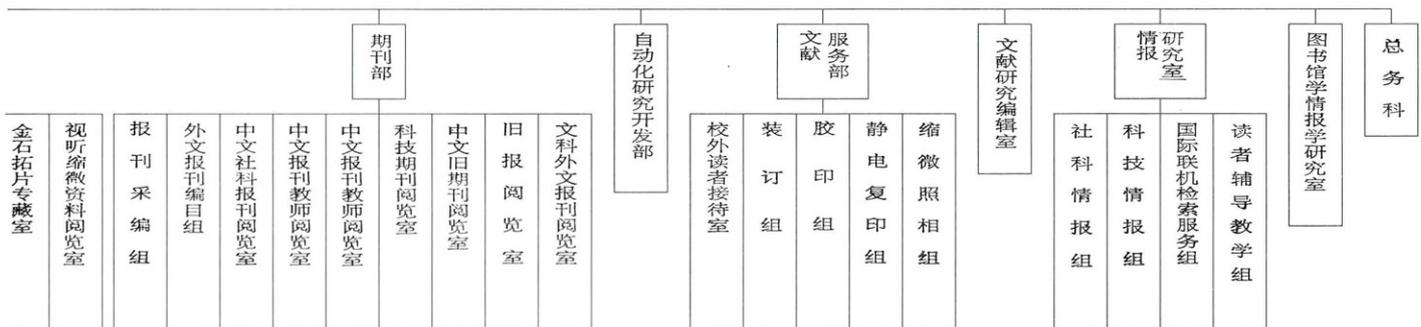
報刊教師閲覧室という所には全国大学の紀要や研究雑誌などが収蔵されているが、ここはありがたいことに部屋の中に複写機が備えてある。この女性サービス員は親切で正直いってホッとした次第である。

一階の奥まった一室に善本閲覧室という部屋がある。ひっそりとして目立たない部屋だが、実はある意味で書誌学者たちにとって、この図書館の心臓とも思われる部屋である。中に入ると四庫全書の洋装本がズラリと壁面に並んでいるのが目を引く。部屋の片隅にある検索カードをみると、宋刊本、明刊本、まさに涎を流すような貴重書の宝庫である。天下の孤本がここに眠っているかと思うと、それだけで胸のたかなる思いである。明刊本以下は自由に閲覧できる。ただその複写は許されていない。ものによっては写真撮影が可能だが、それは法外な値段になる。宋版については、これは言うまでもなく、特別な許可が要る。近年、北京大学は所蔵の善本の複製刊行に力を入れているので、ここに収蔵されているものの幾つかは日本でもその複製本が入手できるようになったのはありがたい。

北京大学図書館以外にも、北京市には語るべき図書館が多い。あまりにも有名なのが、日本の国立国会図書館に相当する北京図書館である。この図書館は全国からくる利用者のために宿舎まで備えている。また東城区には首都図書館があり、清朝の外交資料や地方文書等をふくむ善本三万冊を所蔵しているが、紙幅の都合で、別の機会にこれらの図書館については述べたい。



组 织 机 构 一 览 表



チューリッヒ大学の 3つの図書館

文学部国際文化学科教授 森 泰男



私は1993年7月末から1994年9月中旬までスイスのチューリッヒに滞在して、アウグスティヌス研究に従事した。これは私にとって2度目の在外研究であった。この前は同じスイスのベルン大学において研鑽を積ませていただいた。ベルン大学の図書館については、以前『図書館報』に短い紹介文を掲載していただいたことがある。大学図書館は州立図書館をも兼ねているというようなことを書いた覚えがある。

さて、8月1日はスイスの建国記念日であるが、その翌日私はシントラー教授に案内されてチューリッヒ大学の中央図書館を訪ねた。この図書館の隣りはプレーディガー（説教者）教会であるが、中央図書館のある建物ももともとはその教会の一部だったのである。したがって、図書館の建物は古く、余りに機能的にはできていない。私は早速受付で客員研究者として登録し、入館カードを作って貰った。（後でシントラーに聞いた話であるが、私が教員でもなく学生でもない客員研究者（(ガスト・ミットアルバイター））なので、許可を貰うのに苦労したそうである。）次に、検索機械の説明をもらった。説明はドイツ語と英語でなされる。もちろん図書カードによる検索も可能である。しかし、肝心の本はこれを直接手にとって見ることができない。というのは、書庫は全く別の所であって、そこから取り寄せねばならないからである。しかも、古い建物を利用しているので、よく修理や改装をしなければならない。事実、それから暫くして中央図書館は改装のために閉鎖されてしまった。この図書館はオールド・タウンの真ん中であって、観光都市チューリッヒの欠くことのできない建物であり続けるであろう。しかし、図書館としては余り縁がなかった。

次に、私が属していたスイス宗教改革史研究所は神学部（テオローギッシェス・セミナール）の3階にある。このセミナールの建物も古く、その隣りは有名な大寺院（グロースミュンスター）である。この建物もやはりかつては大寺院の一部だったのである。修道院の建物によくある造りであるが、この建物は中庭を取り囲んでカタカナの口の字形にできている。回廊とか歩廊とか呼ばれる廊下（クロイツガング）にこの研究所の図書館はある。もう少し詳しく言うと、内庭の側に廊下があり、外側には部屋（所長室・秘書室・助手室・

読書室など）がある。その間に細長いスペースがあり、その空間が図書館として利用されている。したがって、廊下を通る人はだれでも自由に書架に接近でき本を直接手に取ってページを開くことができる。借り出しも自分で手続きをすればよく、最高に使いやすい。建物の玄関には受付があるので、一応出入りのチェックがなされるが、建物の中では全く自由に施設を利用することができる。図書が各階に分かれてあり、口の字形になった廊下沿いにあるので、本探しは結構よい運動になる。この建物も古いので、よく改装がなされる。いつか本を探そうと思って書架に行ってみたら、ビニール・シートが掛けられ、壁の塗り替えの最中だった。しかし、事情を話すと職人さんは気楽にシートを捲って必要な本を取ってくれた。とても使いやすい図書館（図書室？）である。

さらに、私が住んでいたアパートは大学本館の近くにあり、周辺には大学の研究所がたくさんあった。隣りはロマンス語・ロマンス文学研究所、向かいには歯学部。少し歩くとスラブ研究所があり、その正面の壁には「ここにかつてローザ・ルクセンブルクが住んでいた」というプレートが掲げられていた。反対方向に5分ほど歩くと東アジア研究所がある。この研究所の日本学の主任教授クロッペンシュタインは前からの知り合いであったので、その図書館をよく利用させて貰った。入館手続きをするのにいくらかの手数料を取られたが、後は全く自由に書庫に入ることができ、1ヵ月5冊以内であれば好きな本を自由に借り出すことができた。自由な時間がたっぷりあったので、日本の小説をたくさん読むことができた。コンパクトではあるが、有り難い図書館であった。この機会に『高橋和巳全集』をまとめて読んだが、なかでも『邪宗門』は再読して感慨深いものがあった。日本語の蔵書数は確かに少なく、研究者には物足りない図書館であろう。しかし、ぶらりと訪ねておもしろそうな本を見つけて借り出す私のような愛書家には有り難いオアシスである。スイス滞在中に新聞で読んだのであるが、女優の山田五十鈴さんがジュネーブ大学にご自身が長年金と時間をかけて収集された貴重な文献を寄贈されたそうである。私も手持ちの小説などを少しチューリッヒ大学東アジア研究所に寄贈したが、非常に喜ばれた。日本学を専攻する学生も徐々に増えているようである。図書館の充実を祈って止まない。

そのほかにも、ペスタロッチ図書館やトーマス・マン文庫（アルヒーフ）などがあるが、またの機会に譲ることにしよう。この報告が皆様にとって何かの参考になれば幸いである。

新着視聴覚資料 紹介

ビデオ

- 題名(上段) 製作発行・摘要(下段)
- 忘れられた人々 (LOS OLVIDADOS)
日本ヘラルド 字幕 81M B/W
- トト・ザ・ヒーロー (TOTO LE HÉROS)
東宝 字幕 92M C
- ふたりのベロニカ (LA DOUBLE VIE DE VERONIQUE)
日本コロムビア 字幕 98M C
- ラヴ・ハッピー (LOVE HAPPY)
東北新社 字幕 85M B/W
- ルーム・サービス (ROOM SERVICE)
東北新社 字幕 78M B/W
- ナイト・オン・ザ・プラネット (NIGHT ON EARTH)
日本ビクター 字幕 129M C
- 華麗なる対決 (LES PETROLEUSES)
NECアベニュー 字幕 91M C
- 裁かるゝジャンヌ (LA PASSION DE JEANNE D'ARC)
I V C 字幕 80M B/W
- 妻への恋文 (LE ZÈBRE)
ポニーキャニオン 字幕 95M C
- インドシナ (INDOCHINE)
ポニーキャニオン 字幕 159M C
- シェルブールの雨傘
(LES PARAPLUIES DE CHERBOURG)
日本ヘラルド 字幕 91M C
- ロシュフォールの恋人たち
(LES DEMOISELLES DE ROCHEFORT)
日本ヘラルド 字幕 127M C

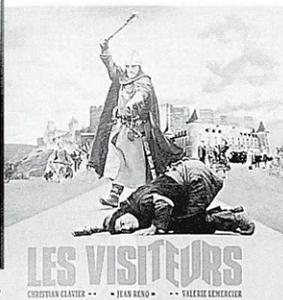


- 幻影は市電に乗って旅をする
(LA ILUSION VIAJA TRANVIA)
日本ヘラルド 字幕 83M B/W
- 海を渡るジャンヌ
(LA VIEILLE QUI MARCHAIT DANS LA MER)
ポニーキャニオン 字幕 94M C
- 男と女の危機 (LA CRISE)
東和ビデオ 字幕 96M C
- 評決 (THE VERDICT)
字幕 129M C
- ヒトラー (全2巻)
I V C 吹替 154M B/W
- アイランズ／島々 (全2巻)
北方四島を考える会 95M C
- イメージトレーニング入門
ごま書房 30M C
- 自然を守る・尾瀬 (小学校国語資料ビデオ)
NHK／光村教育図書 20M C
- 影絵 やまなし (宮沢賢治)
アポロン／光村図書出版 15M C

LD(LV)

C D

- 題名(上段) 製作発行・摘要(下段)
- 野性の夜に (LES NUITS FAUVES)
 パイオニア 字幕 126M C
 IP5 (愛を探す旅人たち)
 日本ビクター 字幕 120M C
 ブラックムーン (BLACKMOON)
 ビクター 字幕 101M C
 ベルエポック (BELLE EPOQUE)
 パイオニア 字幕 109M C
 タンゴ (TANGO)
 ポニーキャニオン 字幕 88M C
 刑事物語 (POLICE)
 創美エンタテイメント 字幕 115M C
 ノートルダム・ド・パリ (NOTRE DOME DE PARIS)
 ポリドール 字幕 120M C
 トリコロール/青の愛 (TROIS COULEURS BLEU)
 パイオニア 字幕 95M C
 バルトーク: 歌劇「青ひげ公の城」
 ポリドール 字幕 57M C
 モーツァルト: 歌劇「ドン・ジョヴァンニ」
 日本フォノグラム 字幕 154M C
 歌劇「椿姫」全曲
 パイオニア 字幕 135M C
 ヴェルディ: 歌劇「仮面舞踏会」全3幕
 ポリドール 字幕 136M C
 ワーグナー: 楽劇「神々の黄昏」全曲
 ポリドール 字幕 280M C
 ウサギとキツネどん
 ビデオアーツ・ジャパン 24M C



- 題名(上段) 製作発行・摘要(下段)
- 源氏物語 (桐壺・帚木・空蟬・夕顔・若紫) 10枚
 (読み手: 関弘子)おぎいこ事務所 各30~70M
 大江戸万華鏡 (大江戸四季の音巡り)
 農文協 74M
 メラネシアの音楽
 ビクターエンタテイメント 45M
 注: M=収録/録音時間(分) C=カラー B/W=モノクロ
 (上記は、平成7年2月~5月上旬受入の新作AVの一部です)

ご存じでしたか?

個々に紹介されたAV資料も含め、図書館1FのAVコーナーで鑑賞することができます。

利用時間 9:00~20:00 (1日1回)

また、グループでの鑑賞を希望するときは、3Fグループ視聴覚室の利用も可能です。利用希望日の前日の午前中までに申し込みをしてください。

新着図書 紹介

- <書名/編著者/出版社/請求記号>
 電子図書館/長尾真/岩波書店/010. 0. 17
 プラトンに学ぶ/田中美知太郎/日本文芸社/
 104. 0. 78
 意識と世界のフィロソフィー/石井伸男/
 青木書店/114. 0. 68
 量の発達心理学/J. ピアジェ他/国土社/
 143. 0. 38
 宗教の未来/日本未来学会/東京書籍/
 160. 4. 95

- 神道学者・折口信夫とキリスト教／濱田辰雄／
聖学院大学出版会／191. 0. 107
- 邪馬台国辞典／武光誠／同成社／210. 3. 243
- 江戸万物事典／高橋幹夫／芙蓉書房出版／
210. 503. 11
- 平安京1200年／平安建都1200年記念協会／
淡交社／216. 2. 24
- アメリカン・ヒーローの系譜／亀井俊介／研究社
出版／285. 3. 5
- ふるさと紀行 会いたくて九州／岬茫洋／秀巧社
印刷／291. 909. 9
- 日本よ、亡びるのか／江藤淳／文藝春秋／
310. 4. 141
- 現代政治過程論／黒川貢三郎他／北樹出版／
311. 0. 267
- アメリカ自由主義の伝説／ルイス・ハーツ／講談
社／311. 253. 11
- 大統領執務室／ボブ・ウットワード／文藝春秋／
312. 53. 78
- 激動する世界の政治・経済／21世紀日本フォーラ
ム／嵯峨野書院／319. 0. 186
- 国連職員への道(増補版)／国連日本人職員有志
の会他／世界の動き社／329. 33. 6-2
- 新経済主義宣言／寺島実郎／新潮社／330. 4. 44
- 韓国経済新時代の構図／司空壺／東洋経済新報社
／332. 21. 45
- 日本経済主役の交代／森谷正規／クレスト社／
332. 107. 129
- 変化の経営学／高柳暁他／白桃書房／335. 1. 40
- 経営情報と簿記システム／石川純治／森山書店／
336. 91. 61A
- 現代企業の管理システム／谷武幸／税務経理協会
／336. 0. 59A
- コンピュータ会計の基礎／池田靖昭他／中央経済
社／336. 9. 39-2A
- 企業活動の国際化と法人税／今西芳治／中央経済
社／345. 3. 184A
- 選抜社会／竹内洋／リクルート出版／361. 3. 7
- 国際ボランティア活動／D. ウッドワース／
ジャパンタイムズ／369. 1. 69A
- 現代教育理論のエッセンス／金子孫市／ペリかん
社／371. 0. 29
- 無機生体化学／西田雄三／裳華房／464. 8. 1
- インターネット7日間の旅／武邑光裕他／日経B
P 出版センター／547. 48. 44
- 広告の世界史／高桑末秀／日経広告研究所／
674. 2. 3
- 環境(グリーン)マーケティング戦略／大橋照枝
／東洋経済新聞社／675. 0. 20
- 世界地下鉄物語／ベンソン・ポブリク／晶文社／
686. 2. 8
- 観光地の形成過程と機能／山村順次／御茶の水書
房／689. 2151. 1
- TV 魔法のメディア／桜井哲夫／筑摩書房／
699. 0. 19



白旗史朗写真集 世界の名峰・花巡礼／白旗史朗
 ／新日本出版社／748. 0. 125
 森の形森の仕事／稲本正他／世界文化社／
 754. 0. 9
 語順で学ぶ中国語入門（文法編）／紹文周／アル
 ク／820. 7. 46
 英語学概論／伊藤弘之他／篠崎書林／830. 1. 36
 金子みすゞ全集（全3巻・ノート）／金子みすゞ

／JULA 出版局／911. 56. 154-1~4
 人生学校／宇野千代／海竜社／914. 6U77. 1
 ヘンリー・ジェームス自伝／H. ジェームス／
 臨川書店／930. 28J18. 3
 青の物語／マルグリット・ユルスナール／白水社
 ／953. Y95. 4
 （上記は、平成7年2～5月上旬受入の新着図書
 〈和書〉の一部です）

【お知らせ】

★検索用の端末機が変わりました。

画面对話式は以前の機種と同じですが、検索するための方法種類も増えています。そのため、キーボードの操作約束が変わっていますので、積極的に馴染まれることをお勧めいたします。



操作の説明はカウンターの職員が応じますので、遠慮なくお尋ねください。

★夏季休暇中（7月11日～9月4日）の利用について

開館時間 9:30～21:00
 閉館日 7月24日（月）～28日（金）
 8月14日（月）～15日（火）

★夏季休暇中の特別貸出があります。

受付期間 6月27日（火）～9月4日（月）
 返却期限 9月19日（火）
 貸出冊数 学部学生 5冊
 専攻科生 5冊
 選科生 5冊

★教育実習貸出について

教育実習に必要な図書の貸出を希望する方はカウンターで手続きが必要です。
 貸出期間 40日間（更新不可）

★卒業論文用帯出について

卒業論文用の帯出は、通常の帯出冊数5冊とは別に3冊多く帯出できますが、カウンターで手続きを必要とします。
 貸出期間 30日（更新不可）

★毎月第4木曜日は端末が利用できません。

毎月第4木曜日はコンピューターの保守点検のために、終日端末での図書検索ができません。また、貸出・返却カウンターの端末も稼働しませんので、ご協力をお願いします。
 なお、図書館は通常通り開館しております。



編集後記

発行のたびに体裁、内容、継続性、資料遭遇提案等、真剣に話し合い作成しております。興味深く利用されることを願っています。

（編集委員会）